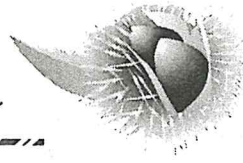


礼拝

令和3年11月22日
8号



教養を高める

～自分のことを相手に伝える力を身につけよう～

十一月も四週目を迎え、間もなく二学期の期末考査の時期を迎えます。先週までの面談週間で日頃の学習や生活について、あるいは進路についていろいろな話ができたことと思います。面談の中で明らかにになったことや進めていくべきこと、省みるべきことを実践し、よりよい学校生活を送るとともに、来るべき期末考査に備えてもらいたいと思います。

さて、十一月の月間目標の実践項目として、教養を身につけることが掲げられています。皆さんは、教養という言葉がどのような意味を持つかを調べてみたことはありませんか。様々な書物で調べ

てみても、多種多様な定義づけや解釈がなされています。例えば「一定の文化理解の元にしっかり身につけることによつて養われる心の豊かさ」であるとか「相手に合わせて、相手に配慮した言葉を選ぶことのできる知識や能力」といった具合で、なかなか整理が付きません。本屋さんで設置されている「教養を身につけるコーナー」に、どのような本が並べられているかと立ち寄ってみても、マネジメント理論、歴史書、リーダー学、実学（データ学）、人間関係に関する本、仏教の解説書や仏教哲学、文化の解説書や文化史：など、これもまた実に多種多様であり、考え方をまとめるには相当骨の折れることであると実感しました。

一ヶ月ほど前、あるお医者さんと話をする機会があり、偶然、教養のある人とはこういう人のことを言うのだろうか、という話題になりました。

「先生方の中に、オリンピックに出場した経験のある人や、海外で生活をしたことがある人がいれば、聞いてみればいいと思うんです。だいたい外国の方との会話の中で『あなたの宗教は何ですか？』とよく問われるものです。そこで『仏教徒です。』と堂々と答えられれば『ほう、それはすごい。』と返ってきますよ。仏教徒以外の人からすると、仏教徒は自分の心を自分で整え、他の宗教との争いご

とを起こしてこなかった平和の模範となる宗教であると考えられていますからね。ただ、残念なことに、多くの日本人は『自分には宗教はない』とか『無神論者である』と答えるんですよ。そう答えると、外国の方の反応は、『あなたは、神を超えるほどのすごい人なのか』とばかりにされたり、『君は何を信じて生きていくんだ？それは一体どういう事なんだ？』と驚かれるかのどちらかですね。つまり、自分の宗教や自国の文化を伝えることのできない、教養のない人という評価を受けるんですね。自分の宗教や自国の歴史、文化を学ぶことは教養を身につけることなんです。だから、仏教を学べる先生のところの学校で、ぜひとも、世界に通用する教養を持った生徒さんを育て続けてください。この話を聞いて本屋さんの教養コーナーに、多種多様な本が並んでいることに納得ができました。

京都文教中学校・高等学校が仏教の教養を基盤とする学校であるがゆえに、仏教中心のお話をしてくださったと思います。仏教に限らず、自分のことをしっかりと伝えられる、つまり教養を高めるためには幅広い知識が必要であり、そのためには時間をかけて本をたくさん読んで、その長い時間の中でだんだんと教養を身につけてもらいたいと思います。